

令和5年度 研究概要

所属名 カリキュラムセンター	研究会議名 道徳研究会議
研究主題	深い学びへとつなぐ、「道徳的価値」や「教材」への自我関与
資質・能力 目指す 育成を	道徳的価値について自分との関わり考え、自己の生き方についての考えを深める
研究内容	<p>道徳科の授業において「自分との関わりで考えること」や「多面的・多角的に考えること」は、大切にしたい学習活動であることを理解している教員は多い。児童生徒も各教科等と同様に学び方を知るようになってきている。令和2年度の本研究会議では、児童生徒のメタ認知を道徳科・道徳教育の特質に生かすことで、自分自身のことを考え、これからの自分をよりよくしたいという道徳性の育成につながることを確認できた。</p> <p>文部科学省の道徳教育実施状況調査（令和3年度）では、道徳科の授業で、「本当に自分のこととして捉え、深まっているか」という指導上の課題があることが分かった。川崎市でも調査をした結果、「自分事にしづらい内容項目や教材の特徴がある」との声が多くあった。</p> <p>学習指導要領解説 道徳編には『「道徳的諸価値についての理解」と「自己の生き方についての考え」を、相互に関連付けることによって、深い理解、深い考えとなっていく。』『自分との関わりで深めることを強く意識して指導することが重要』とある。このことから、「道徳的価値」や活用する「教材」に自分との関わりで考える「自我関与」が重要であることが分かる。資質・能力である「道徳性」を育成するためには、「自我関与」を強く意識した学習活動を実現する必要がある。</p> <p>本研究会議では、自分のこととして捉えた児童生徒が、考えを深めていく姿を見取るために、道徳科における自我関与を「道徳的価値について自分がどのように捉え、どのような葛藤があるのか、また、道徳的価値を実現することにどのような意味を見いだすことができるのかを捉える」こととし、自我関与が難しいと感じる内容項目や教材の特徴について分析する。それらをどのように授業で扱っていくと、児童生徒が自分との関わりで考えられるのかを授業実践を通して検証する。</p>